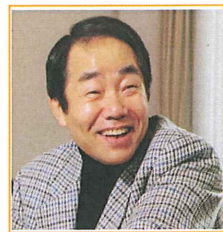


9冊目の拙書「増益のしかけ」の御紹介



横林寛助 (ヨコエ ヒロシ)

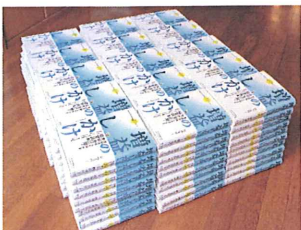
(株)YBI 代表取締役、山口大学大学院客員教授。
4社の社外取締役、15社の顧問、20社の株式公開を果たす。
経営コンサルタント、ベンチャーキャピタリスト、大学教授、
執筆家と多彩な顔を持つ異色の人物。
トステム取締役時代、企業内VC(株式公開)、M&A、新規事業開
発で、故P.Fドラッカーから高い評価を受ける。
独立後、独自で開発した計数管理によるユニークな増益管理
手法で延べ600社の企業と幹部社員6000人を指導し、指導会
社の98%を増益に導き、マスコミからは「増益請負人」と称さ
れ大きな反響を受けているが、本人は「幹部社員教育人」と言
っている。
一方で、大学院、中央官庁、自分が主管する経営塾で将来日本
を背負う企業家育成、ベンチャー企業家の育成に余念がない。
日本初のエンジェルとしても大きな注目を集めている。
1939年生まれ、工学博士、技術士。

世界同時不況は、想像以上の売上激減で企業を苦しめています。しかし、大不況であるからこそ、診える増益経営理論を発見するチャンスでもあります。新理論究明に、慎重且つ大胆に取り組んでおります。

本を書くことは体力・知力の限界を走ります。2004年に『利益を生み出す経営モデル&実践シート』(すばる舎)を出版した時、もう2度と書くまいと執筆に封印しました。

一昨年、2回の手術を機にストレスの多い仕事を半減させました。すると、多くの会社から貴重な増益経営ノウハウを頂きながら、このまま放置していいのか?と自分に問いかけ始めました。折しも、同年輩の原田明夫さん(元検事総長、現東京女子大学理事長)や千本倅生さん(イー・モバイル会長)が活躍されているのを真近で見て、自分に出来ることは何かを問いかけた時、本を出版することにより社会還元にしようと思えました。

ならば、古希に出版しよう。今迄は、原稿を書いてから出版社に持込むという独りよがりのプロダクトアウトでしたが、今回は読者に読んで頂けるマーケットアウトを狙い出版社の意向に沿って出筆をしました。



真心込めてサインした新書(150冊)

出版社からの原稿締切りは、昨年12月末でしたが、いざ書き始めると増益経営ノウハウがすらすら湧き出て45日程で書き終え、早々と7月上旬には入稿しました。

流石、東洋経済です。重複文章の発見が素晴らしく、この20箇所程の修正に思わぬ時間を要しました。

タイトルは11候補の中から2つに絞り込み、「増益のしかけ」に決めました。

ブックカバーデザインは、当方が希望するドットグラデーションが通じず、最後はデザイナーと直接話しあって決めました。また、幅広い帯も気に入っています。

大手の東洋経済ともなると、著者の希望通りになりません。同社の発行日は指定されていますが、何としても誕生日の4月15日が発行日になるよう、強く要望しました。恐らく、同社では4月15日の発行日は始めての最後になるであろう記念すべき4月15日(古希)のプレゼントを同社から頂きました。

原稿が簡単に書けた分、読み易くなっていると思います。世界同時不況打開戦略の一助になればと願ってやみません。皆様方の社員・友人・知人にお奨め願えれば幸いです。

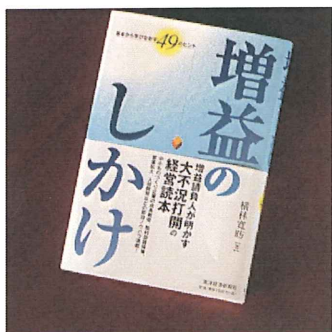
PS:新書の写真(150冊)は、4月15日有志によって開催される「出版記念会」の参加者に、著者が真心込めて感謝のサインをさせて頂いた記念すべき拙書です。

基本から学びなおす49のヒント

「増益のしかけ」

増益請負人が明かす大不況打開の経営読本

2009年4月15日 横林寛助



目次

第1章	原材料高騰時代に克つ	
第2章	利益を出すには在庫を崩せ	出版社:東洋経済新報社
第3章	「品質重視」が意味するもの	著者:横林寛助
第4章	環境激変を逆手にとる	定価:本体1800+税
第5章	若者が変わる 人事も変わる	形状:四六判、上製、220ページ
第6章	会社の成長力を獲得する	
第7章	会社が成功への共同体になる	

本書を推す

日本を代表する増益経営「指南」の第一人者の横林さんが、豊富な体験を通して、判り易く解き明かす実践的増益ノウハウが本書の中で結実されています。貴重な経験を蒸留した本書こそ、「世界同時不況」を打破する最良の手引書といえよう。

イー・モバイル会長 千本倅生

大変な時代になった。全治3~5年という人がいるが、もう元には戻らないと思う。資本主義を発見する旅が始まったのだ。その一助として、利益志向の本書は参考になる。

一橋大学イノベーション研究センター長・教授 米倉誠一郎

